

2020 年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 20 日

1. 職名・氏名 教授 清水 聡

2. 学位 学位 修士、専門分野 学術、授与機関 大阪大学、授与年月 S62.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	心理学（2単位 毎年開講） 1・2・3・4年生
② 内容・ねらい	本講義は、初めて心理学を学ぶ学生のための基礎的、概説的な心理学である。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通じて考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。人間および動物を対象とした心理学の諸領域について、代表的なトピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	目に見えないこころに関する学問である心理学に初めてふれる学生を主たる対象とするため、「性格」についての講義から始め、その延長上に自分の性格を調べるにテストを実施して、自分の性格に関するレポートを作成させている。まず自分の心理に関して考える作業をさせた後に、一般の人々の心理について考えるという手順で講義を展開して、理解しやすくしている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	人間関係論（2単位 毎年開講） 1・2・3・4年生
② 内容・ねらい	本講義は、前期に行われた「心理学」の応用編である。「心理学」では主に個人の心の働きについて述べたが、本講義ではそのような心理が社会的場面でどのように表れるかについて考える。具体的には、複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している社会的場面において、人間がそのような考え行動するのかについて学ぶ。社会的場面における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義に際して工夫しているのは特に以下の2点である。①講義内容は学生がこれまで身につけてきた一般常識で理解できそうに感じられるため、授業中折に触れ、一般常識よりは一步踏み込んだ内容を講述していることを強調する。②単なる知識以上の理解をしてもらうために、学期の途中で、自分の所属する集団内での人間関係についてのレポートを書かせている。これにより、普段深く意識することの少ない自分を取り巻く人間関係について考えさせるきっかけとさせている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	導入ゼミ（1単位 毎年開講） 1年生
② 内容・ねらい	本ゼミは、大学に入学したての1年生に対して大学レベルでの勉強の仕方を教えるものである。題材として発達障害の一つである自閉症を取り上げる。自閉症児の発達について描かれたマンガを熟読するところから始めて、その中でインスパイアされた各自の興味に応じて、さらに詳しく調べてみたいところを各自決めて、調べ、皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。特定の題材について学問的に調べ、他人にわかりやすく説明することを経験してもらうことを目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	「自閉症」という初めて耳にする対象に学生がとっつきやすいようマンガで描かれたものから

スタートし、次の段階では個人で、次いでグループで役割分担をして調べ物をするというように、段階を踏んで新しい知識の領域に踏み込んでいけるよう授業を構成している。その中で、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（1単位 毎年開講） 1年生
② 内容・ねらい まず発達障害の基本的概念についての講義を行った後、テキストの中で担当部分を決めて、テキストの内容に自分で調べた内容を加えて、担当部分について皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。自閉症、ADHD等、成人する以前に発症する障害である発達障害を題材にして、その中の特定の領域について自分で文献を調べ、他人に分かりやすくプレゼンテーションをする練習を行う。その結果として、発達障害の概念が明確になり、さらに個別の発達障害についてより深く知る事を目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講する学生の多くが初めてふれるであろう「発達障害」という領域について、基本的概念について一応説明はするが、少し踏み込んだ内容については少人数のグループ内で調べ、発表するという過程を踏んでもらい、その過程で逐次助言を加えることにより、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 学術ゼミ（2単位 毎年開講） 2・3・4年生
② 内容・ねらい 本講義は自閉症を中心とした発達障害の基礎および基礎的な心理学を学んだ学生を対象としてやや専門的な内容を扱う。発達障害に関する文献の購読および実際の指導経験などから、彼らに対する実践的な考察を行う事を目標とする。自閉症の中でも知的に遅れのない自閉スペクトラム症、および隣接する発達障害について、文献購読、映像の鑑賞、実際に彼らにつきあってみる等を通じて理解を深めている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 単なる文献の解説だけでなく、関連する教育、福祉分野にまで及んだ話題も広く講述して、発達障害について包括的に理解できることを目指している。また、関係機関の見学、発達障害当事者の自助グループの活動への参加等も促して、実践的な力を身につけることもさせている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 特別支援教育（2単位 毎年開講） 1年生
② 内容・ねらい 本講義は、今年度から教職課程の必修科目に指定された科目である。教員を目指す学生にたいして、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性について理解し、その特性を踏まえた対応を学内のチームおよび学外機関との連携で実施することを理解できるようになることを目標とする。特別支援教育の理念、発達障害を中心とした特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性および特性に応じた対応法について概説し、それを行う学内の体制、学外機関との連携の実際等について事例を挙げながら講述する。適宜小グループによる事例検討も行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 1年生を対象とした授業であるため、単なる用語、知識の解説だけではなく、できる限り具体的な事例を挙げたり、小グループによる事例検討を行ったりしながら、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒および彼らへの支援の実際のイメージを構築してもらえよう工夫している。
(2)非常勤講師担当科目
① 担当科目名（単位数） 開講学校名 心理学 福井県立看護専門学校 1年生

② 内容・ねらい 本講義は、初めて心理学を学ぶ学生のための基礎的、概説的な心理学である。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通じて考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。人間および動物を対象とした心理学の諸領域について、代表的なトピックスを取り上げて概説した。適宜実習も行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 目に見えないこころに関する学問である心理学に初めてふれる学生を主たる対象とするため、「性格」についての講義から始め、その延長上に自分の性格を調べるにテストを実施して、自分の性格に関するレポートを作成させている。まず自分の心理に関して考える作業をさせた後に、一般の人々の心理について考えるという手順で講義を展開して、理解しやすくしている。
④ 本学における業務との関連性 看護学生に必要とされる本科目を講義できる教員として学外貢献をしている。
① 担当科目名（単位数） 開講学校名 人間関係論 仁愛女子短期大学生活科学科1、2年生
② 内容・ねらい 本講義では、複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している社会的場面において、人間がそのように考え行動するのかについて学ぶ。社会的場面における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義に際して工夫しているのは特に以下の2点である。①講義内容は学生がこれまで身につけてきた一般常識で理解できそうに感じられるため、授業中折に触れ、一般常識よりは一步踏み込んだ内容を講述していることを強調する、②単なる知識以上の理解をしてもらうために、学期の途中で、自分の所属する集団内での人間関係についてのレポートを書かせている。これにより、普段深く意識することの少ない自分を取り巻く人間関係について考えさせるきっかけとさせている。
④ 本学における業務との関連性 生活科学科に必要とされる本科目を講義できる教員として学外に貢献している。
① 担当科目名（単位数） 開講学校名 小児発達評価・療育学 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学小児発達学研究科
② 内容・ねらい 本講義はオムニバス講義であり、その中の2コマを担当している。1コマ目は「療育・介入・支援の技法」として、応用行動分析、TEACCH、PECS、ソーシャル・ナラティブ等について、2コマ目は中長期的視点からみた発達障害児の小集団療育についての概説を行っている。発達障害児を対象に行われることの多いこれらの技法について紹介し、これらの技法についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義に際して工夫しているのは、単なる知識の伝達だけではなく、時に誤解を受けることもあるこれらの技法の本質について分かりやすく説明することである。
④ 本学における業務との関連性 小児の発達の研究に従事して、そこで得られた知識を現場にフィードバックすることの多い大学院生に、このような講義を行うことのできる教員として学外に貢献している。
(3)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加 カンファレンス北陸（北陸・新潟の大学における発達障がい学生支援のためのネットワーク構築のための研修会）出席及び議論（於：富山大学）
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井大学子どものこころの発達研究センター・客員教授（H24.12～現在に至る） 福井県心身障害児就学指導委員会（委員長）（H17.5～現在に至る） 福井県発達障害児者支援センター連絡協議会委員（副委員長）（H18.4～現在に至る） 福井市保育所入所児発達相談専門委員会委員（H19.4～現在に至る） 福井市発達障がい支援専門家検討委員会（委員長）（H24.4～現在に至る） 福井市特別支援教育専門委員会（委員長）（R1.4～現在に至る） 福井市社会福祉審議会障がい福祉専門分科会（委員長）（R1.4～現在に至る） 福井市障がい者差別解消地域協議会委員(委員長)（R1.4～現在に至る） 小浜市発達障がい者支援専門委員（R2.4～現在に至る）

② 国・地方公共団体等の調査受託等 乳幼児健診後のフォロー事業における助言・相談 福井市（幼児健診後の経過観察児および保育園等で気になる児、言語や対人関係の発達等に問題がある児について、発達や育児に関する個別専門相談）（H16.4～R3.3） 福井県こども療育センターでの自閉症児の療育に関する外来相談担当（H8.4～現在に至る） 福井市保育カウンセラー（H22.4～現在に至る） 福井県立大学主管 教員免許状更新講習講師「気がかりな児童・生徒の相談・支援」（H23.4～現在に至る）
③ 公益性の強い NPO・NGO 法人への参加 NPO 法人はるもにあ理事長（発達障害児者支援のための NPO 法人）（H23.4～現在に至る）
④ 兼業規程で業務と見なされる範囲内での企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他 1. 発達障害関連の役職 福井アスぺの会（高機能自閉症児者支援団体）代表（H14.4～現在に至る） 福井県自閉症協会（旧（社）日本自閉症協会福井県支部）副代表（H14.4～現在に至る） JDD ネット（日本発達障害者ネットワーク）福井代表（H19.7～現在に至る） 2. 発達障害、特別支援教育関連講演・助言等 1) 福井市委託 発達障がい支援者人材育成研修（初級編・中級編）講師「発達障がいの理解」（2020 年 5 月、6 月） 2) 福井市委託 発達障がい支援者人材育成研修（上級編）講師「発達障がいに関する相談」（2021 年 1 月） 3) 福井県特別支援教育センター主管 令和元年度こどもとそだちの相談会（2 回）（2020 年 5 月、12 月） 4) 令和 2 年度特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト研修会（検討会議）における助言（2020 年 2 月） 5) 福井市健康管理センター主管 「子どもの発達支援」講演会講師（2020 年 11 月） 6) 福井県教育委員会主管 高等学校通級授業の見学（鯖江高校）及びその後の連絡協議会での助言（2020 年 12 月） 7) 令和 2 年度特別支援教育担当者連絡協議会 兼 合理的配慮研究事業運営協議会の助言者（2020 年 7 月、11 月、2021 年 2 月）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
教育研究委員会委員

(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など